



タイトル「**2023年度危機管理学部(公開用)**」、フォルダ「**危機管理学部**」
シラバスの詳細は以下となります。



科目ナンバー	RMGT4601S		
科目名	ゼミナール I		
担当教員	山下 博之		
対象学年	2年,3年,4年	開講学期	後期
曜日・時限	月 2		
講義室	1315	単位区分	必
授業形態	演習・ゼミナール	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門統合		
科目小分類	専門統合・演習		
科目の位置付け（開発能力）	■ D Pコード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連 D P 1－E 〔学識・専門技能〕 専門分野にかかる論理知と実践知を獲得し利用することができる。 D P 1－H 〔論理的思考力・批判的思考力〕 理路整然とした思考を備えつつ、偏りを排除するための内省をもって、問題・課題を合理的に解決することができる。 D P 4－F 〔探求力・課題解決力〕 問を設定し又は論点を特定し、それに対する答・結論・判断を合理的に導くために、論拠の収集と分析を体系的に行うとともに、オープンエンドな問題・課題に答えるための方略をデザインし、検証し実行することができる。 D P 4－I 〔理解力・分析力〕 文章表現、数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、課題の解決につなげることができる。 D P 6－K 〔表現力・対話力〕 文章口頭で、自らの考えを的確に表現し、他者に過不足なく伝達することができる。 D P 7－L 〔協働力・牽引力〕 集团的に課題解決を行う際に、自己の立場や責任を認識し、互いに集団の連帯を強めることができる。 ■ C Rコード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンルーブリック（C R）との関連 E 1 学識と専門技能（10%） H 2 批判的思考（10%） F 1 探求と論拠（20%） I 1 理解・分析と読解（15%） I 3 情報分析（15%） K 1 ライティング・コミュニケーション（10%） K 2 オーラル・コミュニケーション（10%） L 1 チームワーク（10%）		
教員の実務経験	2009年から2015年にかけて消防庁所管のシンクタンクの研究員として、国、地方自治体の防災政策及び消防政策に関する調査、研究業務に従事してきました。2018年度には、消防庁の「国民保護に関する懇話会」の委員を務めました。また、2019年度以降は栃木県中小企業団体中央会による「災害時応援協定締結支援事業」（栃木県委託事業）の講師・アドバイザー役として、各種中小企業の災害時応援協定及びBCPの取り組みを支援しています。これらの業務を通じて得られた実務上の知見や経験を活かし、本講義を展開していきます（第1回～第15回）。		
成績ターゲット区分	■成績ターゲット区分：能力開発の目標ステージとの対応 3 発展期 ～ 4 定着期		
科目概要・キーワード	危機管理とその基礎となる法学に関する専門的な研究活動を実践するために、必要な研究の手法を学び、学生自らが個人の研究テーマを設定し、研究論文を執筆するための指導を行います。		

	す。学生自らが危機管理に関する問題を発見し、仮説を構築し、自力で仮説を検証することにより、問題の解決につなげ、危機管理能力を養います。 ここでは、問題意識を確立し、卒業論文につながる個人研究のテーマを決定すると同時に、先行研究を収集して専門領域に関する知識を獲得します。 授業形態は演習形式により行います。なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。 ■ キーワード 防災・減災、政策リサーチ、リサーチクエストと仮説、資料・データ、共同研究
授業の趣旨	■ 副題 「災害」や「防災・減災」を通じて社会問題について考え、またそれを解決する方法や解決の手がかりまたは問題そのものに対し客観的、論理的に迫っていく力を養います。 ■ 授業の目的 本ゼミの目的は次の4つの点です。 ・災害に対する国、自治体、企業、地域、個人の取り組み、あるいは災害現象そのものに関する理解を深めること。 ・災害や防災・減災政策の研究を通じてわが国の（あるいはグローバルな）政治・社会・経済、文化を学ぶこと。 ・「研究」に関する基本的な方法論やルールを学び、学んだことを卒業論文で実践すること。 ・研究及び研究以外のあらゆるゼミ活動を通じて、就職活動や就職後に必要なスキルを鍛錬すること。 ■ 授業のポイント 国、自治体などの行政機関、企業組織や地域住民など災害対策を検討、あるいは実践する組織や集団について学び、研究することは、災害対策そのものや災害現象について直接的に学び、研究するのと同様に重要なことです。本授業では「災害」や「防災・減災」について学び、研究しながら、「災害」や「災害対策」の背景にある社会問題について考え、またそれを解決する方法や解決の手がかりまたは問題そのものに対し客観的、論理的に迫っていく力を養います。
総合到達目標	■ 旺盛な関心をもって危機管理学及びそれを支える諸科学における重要問題を探求し、これを科学的な手法によって分析し、又は論理的に解釈して知見を見出すとともに、その成果を適切に表現することができる。 ・防災上の問題に関する自らの問題意識を提示することができる（第5回～第7回） ・自らの問題意識を研究の問いとして説明することができる（第8回・第9回）。 ・研究の問いに対する仮説を提示することができる（第8回・第9回）。 ・仮説の検証方法を自ら検討し、研究計画として提示することができる（第10回～第15回）。 ・自らの研究に関連する文献を自ら収集し読むことができる（第2回～第15回） ■ 授業を通じて他者とコミュニケーションをとることができる。 ・文献を要約し発表するためのレジюмеを作成することができる（第2回～第4回） ・基本的な文章執筆のルールに従いレポートを作成することができる（第5回～第7回） ・読みやすさ、見やすさを意識しながら発表用の資料を作成することができる（第2回～第4回） ・発表の際、聞き手の反応を意識しながら発表することができる（第2回～第15回） ・発表に対する自分なりの意見や質問を述べることができる（第2回～第15回）。
成績評価方法	■ レジюмеの作成・報告 4回（30%）：適用ルーブリックE1、H2、F1、I1、I3、K1、K2 （評価の観点）報告すべきこと（文献の内容、自分の研究内容等）についてのポイントが押さえられたレジюме・パワポかどうか、分かりやすいレジюме・パワポかどうか、聞き手が理解できるよう報告できているかどうか等について評価します。 （フィードバック方法）発表時にその都度、ポイントを押さえられているかどうか、レジюме・パワポ内容または口頭による説明の分かりやすさ等についての評価を行い、アドバイスします。 ■ ミニ・レポートの作成・提出 2回（35%）：適用ルーブリックE1、H2、F1、I1、I3、K1、K2 （評価の観点）自ら設定した問いの適切さ、レポート内で展開する議論の論点及び議論の軸の明確さ、論理の矛盾や飛躍の有無、議論の客観性及び裏付けとなる根拠の有無、議論の客観性及び根拠を確保する上で十分な文献・資及・データ等の収集・読解の可否等について評価します。 （フィードバック方法）発表時にその都度、議論の論点及び議論の軸の明確さ、論理の矛盾や飛躍の有無、議論の客観性及び裏付けとなる根拠の有無、議論の客観性及び根拠を確保する上で十分な文献・資及・データ等の収集・読解の可否等についての評価を行い、アドバイスします。 ■ 授業参加度 15回（35%）：適用ルーブリックE1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1 （評価の観点）上記のレジюме・パワポ・レポート等の報告者が行った報告について自分なり

	に考察し、意見及び疑問を提示しているかどうか等について評価します。 (フィードバック方法) その都度、評価しアドバイスします。	
履修条件	『社会調査法』、『災害対策論』を履修していることが望めます。	
履修上の注意点	・報告や議論に積極的に参加してください。 ・無断欠席は厳禁。欠席する場合は、教員に直接連絡をすること。 ・フリーライド(ただ乗り)は認めません。ゼミ活動への積極的な貢献が望まれます。	
授業内容	回	内容
	1	① 授業テーマと概要 ・文献講読テーマ：災害研究の系譜について知ろう 『災害社会学入門 [シリーズ災害と社会 第1巻]』の第1章の内容について輪読します (E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1)。 ・ミニレポートテーマ：避難勧告・指示 担当者が作成したミニレポートをもとに、文章表現に関する評価を行い、またレポート内容に関する質疑及び補足、意見交換等を行います (E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1)。 ・共同研究テーマ：政策研究の基礎を学ぶ(1) 『政策リサーチ入門—仮説検証による問題解決の技法』の第1章について輪読します (E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1)。 ・今後の授業の展開と教材の概要について説明することができるようになる。 ・実務経験を踏まえて説明します。 ② 予習 (180分) ・『災害社会学入門 [シリーズ災害と社会 第1巻]』の第1章を読んでおく※1 ・『政策リサーチ入門—仮説検証による問題解決の技法』の第1章を読んでおく※1 ・ミニ・レポートのテーマについて自分なりに調べておく※2 ※1 担当者を指定し、上記文献のレジюмеを作成してもらう。 ※2 担当者を指定し、テーマについてレポートを作成してもらう。 ③ 復習 (60分) ・輪読した文献について、レジюмеをもとに再読しておく。
	2	① 授業テーマと概要 ・文献講読テーマ：災害と社会的対応の歴史について知ろう 『災害社会学入門 [シリーズ災害と社会 第1巻]』の第2章の内容について輪読します (E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1)。 ・ミニレポートテーマ：避難所運営 担当者が作成したミニレポートをもとに、文章表現に関する評価を行い、またレポート内容に関する質疑及び補足、意見交換等を行います (E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1)。 ・共同研究テーマ：政策研究の基礎を学ぶ(2) 『政策リサーチ入門—仮説検証による問題解決の技法』の第2章について輪読します (E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1)。 ・研究における「問い」(リサーチクエスション)の意味と重要性について説明することができるようになる。 ・実務経験を踏まえて説明します。 ② 予習 (180分) ・『災害社会学入門 [シリーズ災害と社会 第1巻]』の第2章を読んでおく※1 ・『政策リサーチ入門—仮説検証による問題解決の技法』の第2章を読んでおく※1 ・ミニ・レポートのテーマについて自分なりに調べておく※2 ※1 担当者を指定し、上記文献のレジюмеを作成してもらう。 ※2 担当者を指定し、テーマについてレポートを作成してもらう。 ③ 復習 (60分) ・輪読した文献について、レジюмеをもとに再読しておく。
	3	① 授業テーマと概要 ・文献講読テーマ：災害における生命と心(1) 『災害社会学入門 [シリーズ災害と社会 第1巻]』の第3章第1節、第2節の内容について輪読します (E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1)。 ・ミニレポートテーマ：支援物資 担当者が作成したミニレポートをもとに、文章表現に関する評価を行い、またレポート内容に関する質疑及び補足、意見交換等を行います (E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1)。 ・共同研究テーマ：政策研究の基礎を学ぶ(3) 『政策リサーチ入門—仮説検証による問題解決の技法』の第3章について輪読します (E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1)。 ・研究における「仮説」の意味と重要性について説明することができるようになる。 ・実務経験を踏まえて説明します。 ② 予習 (180分)

	・『災害社会学入門 [シリーズ災害と社会 第1巻]』の第3章第1節、第2節を読んでおく ※1 ・『政策リサーチ入門—仮説検証による問題解決の技法』の第3章を読んでおく ※1 ・ミニ・レポートのテーマについて自分なりに調べておく ※2 ※1 担当者を指定し、上記文献のレジュメを作成してもらう。 ※2 担当者を指定し、テーマについてレポートを作成してもらう。 ③ 復習 (60分) ・輪読した文献について、レジュメをもとに再読しておく。
4	① 授業テーマと概要 ・文献講読テーマ：災害における生命と心 (2) 『災害社会学入門 [シリーズ災害と社会 第1巻]』の第3章第3節、第4節の内容について輪読します (E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1)。 ・ミニレポートテーマ：支援物資 担当者が作成したミニレポートをもとに、文章表現に関する評価を行い、またレポート内容に関する質疑及び補足、意見交換等を行います (E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1)。 ・共同研究テーマ：政策研究の基礎を学ぶ (4) 『政策リサーチ入門—仮説検証による問題解決の技法』の第4章について輪読します (E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1)。 ・研究における「調査」の方法と留意点について説明することができるようになる。 ・実務経験を踏まえて説明します。 ② 予習 (180分) ・『災害社会学入門 [シリーズ災害と社会 第1巻]』の第3章第3節、第4節を読んでおく ※1 ・『政策リサーチ入門—仮説検証による問題解決の技法』の第4章を読んでおく ※1 ・ミニ・レポートのテーマについて自分なりに調べておく ※2 ※1 担当者を指定し、上記文献のレジュメを作成してもらう。 ※2 担当者を指定し、テーマについてレポートを作成してもらう。 ③ 復習 (60分) ・輪読した文献について、レジュメをもとに再読しておく。
5	① 授業テーマと概要 ・文献講読テーマ：災害と情報 (1) 『災害社会学入門 [シリーズ災害と社会 第1巻]』の第4章第1節、第2節の内容について輪読します (E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1)。 ・ミニレポートテーマ：災害とライフライン 担当者が作成したミニレポートをもとに、文章表現に関する評価を行い、またレポート内容に関する質疑及び補足、意見交換等を行います (E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1)。 ・共同研究テーマ：政策研究の基礎を学ぶ (5) 『政策リサーチ入門—仮説検証による問題解決の技法』の第5章について輪読します (E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1)。 ・研究における「分析」の方法と留意点について説明することができるようになる。 ・実務経験を踏まえて説明します。 ② 予習 (180分) ・『災害社会学入門 [シリーズ災害と社会 第1巻]』の第4章第1節、第2節を読んでおく ※1 ・『政策リサーチ入門—仮説検証による問題解決の技法』の第5章を読んでおく ※1 ・ミニ・レポートのテーマについて自分なりに調べておく ※2 ※1 担当者を指定し、上記文献のレジュメを作成してもらう。 ※2 担当者を指定し、テーマについてレポートを作成してもらう。 ③ 復習 (60分) ・輪読した文献について、レジュメをもとに再読しておく。
6	① 授業テーマと概要 ・文献講読テーマ：災害と情報 (2) 『災害社会学入門 [シリーズ災害と社会 第1巻]』の第4章第3節、第4節の内容について輪読します (E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1)。 ・ミニレポートテーマ：災害と交通機関 担当者が作成したミニレポートをもとに、文章表現に関する評価を行い、またレポート内容に関する質疑及び補足、意見交換等を行います (E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1)。 ・共同研究テーマ：政策研究の基礎を学ぶ (6) 『政策リサーチ入門—仮説検証による問題解決の技法』の第6章について輪読します (E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1)。 ・研究の結果を踏まえて政策提言をまとめる際の留意点について説明できる。 ・実務経験を踏まえて説明します。 ② 予習 (180分) ・『災害社会学入門 [シリーズ災害と社会 第1巻]』の第4章第3節、第4節を読んでおく

	※1 『政策リサーチ入門—仮説検証による問題解決の技法』の第6章を読んでおく※1 - ミニ・レポートのテーマについて自分なりに調べておく※2 ※1 担当者を指定し、上記文献のレジюмеを作成してもらう。 ※2 担当者を指定し、テーマについてレポートを作成してもらう。 ③ 復習（60分） - 輪読した文献について、レジюмеをもとに再読しておく。
7	① 授業テーマと概要 - 文献講読テーマ：被災生活と生活再建（1） 『災害社会学入門 [シリーズ災害と社会 第1巻]』の第5章第1節、第2節の内容について輪読します（E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1）。 - ミニレポートテーマ：仮設住宅 担当者が作成したミニレポートをもとに、文章表現に関する評価を行い、またレポート内容に関する質疑及び補足、意見交換等を行ないます（E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1）。 - 共同研究テーマ：チームビルディング（1） 共同研究をともに行うグループを結成し、グループリーダーを決めます（K1、K2、L1）。 - 実務経験を踏まえて説明します。 ② 予習（180分） 『災害社会学入門 [シリーズ災害と社会 第1巻]』の第5章第1節、第2節を読んでおく※1 - ミニ・レポートのテーマについて自分なりに調べておく※2 ※1 担当者を指定し、上記文献のレジюмеを作成してもらう。 ※2 担当者を指定し、テーマについてレポートを作成してもらう。 ③ 復習（60分） - 輪読した文献について、レジюмеをもとに再読しておく。
8	① 授業テーマと概要 - 文献講読テーマ：被災生活と生活再建（2） 『災害社会学入門 [シリーズ災害と社会 第1巻]』の第5章第3節、第4節の内容について輪読します（E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1）。 - ミニレポートテーマ：被災者の生活再建 担当者が作成したミニレポートをもとに、文章表現に関する評価を行い、またレポート内容に関する質疑及び補足、意見交換等を行ないます（E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1）。 - 共同研究テーマ：チームビルディング（2） 各グループごとにメンバーが考えてきた共同研究テーマと研究対象自治体を提示し、グループで研究するテーマと研究対象自治体について検討し、決まったら発表し、全体で討議します（K1、K2、L1）。 - グループの他のメンバーに対して自らの意見を示すとともに、議論を通じてグループの意見を集約し、全体に向けて説明することができるようになる。 - 実務経験を踏まえて説明します。 ② 予習（180分） 『災害社会学入門 [シリーズ災害と社会 第1巻]』の第5章第3節、第4節を読んでおく※1 - ミニ・レポートのテーマについて自分なりに調べておく※2 - 共同研究を通じて明らかにしたいこと、焦点を当てる自治体について各自考えてくる。 ※1 担当者を指定し、上記文献のレジюмеを作成してもらう。 ※2 担当者を指定し、テーマについてレポートを作成してもらう。 ③ 復習（60分） - 輪読した文献について、レジюмеをもとに再読しておく。
9	① 授業テーマと概要 - 文献講読テーマ：新たなリスクに対峙して（1） 『災害社会学入門 [シリーズ災害と社会 第1巻]』の第6章第1節～第3節の内容について輪読します（E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1）。 - ミニレポートテーマ：がれき処理 担当者が作成したミニレポートをもとに、文章表現に関する評価を行い、またレポート内容に関する質疑及び補足、意見交換等を行ないます（E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1）。 - 共同研究テーマ：リサーチクエスト・仮説の設定（1） 各グループが定めた共同研究のテーマをどのようなリサーチクエスト（なぜ～なのか）の形にできるか、またどのような仮説が考えられるか検討します（K1、K2、L1）。 - グループの他のメンバーに対して自らの意見を示すとともに、議論を通じてグループの意見を集約し、全体に向けて説明することができるようになる。 - 実務経験を踏まえて説明します。

	② 予習 (180分) 『災害社会学入門 [シリーズ災害と社会 第1巻]』の6章第1節～第3節を読んでおく※1 - ミニ・レポートのテーマについて自分なりに調べておく※2 - 共同研究のテーマについて、どのようなリサーチエスチョンが可能か各自考えてくる。 ※1 担当者を指定し、上記文献のレジюмеを作成してもらう。 ※2 担当者を指定し、テーマについてレポートを作成してもらう。 ③ 復習 (60分) - 輪読した文献について、レジюмеをもとに再読しておく。
10	① 授業テーマと概要 - 文献講読テーマ：新たなリスクに対峙して (2) 『災害社会学入門 [シリーズ災害と社会 第1巻]』の第6章第4節～第5節の内容について輪読します (E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1)。 - ミニレポートテーマ：復興まちづくり 担当者が作成したミニレポートをもとに、文章表現に関する評価を行い、またレポート内容に関する質疑及び補足、意見交換等を行なう (E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1)。 - 共同研究テーマ：リサーチエスチョン・仮説の設定 (2) 各グループで検討したリサーチエスチョンと仮説について発表し、全体で討議します (K1、K2、L1)。 - グループの他のメンバーに対して自らの意見を示すとともに、議論を通じてグループの意見を集約し、全体に向けて説明することができるようになる。 - 実務経験を踏まえて説明します。 ② 予習 (180分) 『災害社会学入門 [シリーズ災害と社会 第1巻]』の6章第3節～第4節を読んでおく※1 - ミニ・レポートのテーマについて自分なりに調べておく※2 - 自らのグループの研究テーマ、リサーチエスチョン、仮説に関するレジюмеに整理する。 ※1 担当者を指定し、上記文献のレジюмеを作成してもらう。 ※2 担当者を指定し、テーマについてレポートを作成してもらう。 ③ 復習 (60分) - 輪読した文献について、レジюмеをもとに再読しておく。
11	① 授業テーマと概要 - 文献講読テーマ：災害社会学の新たな視点・論点 (1) 『災害社会学入門 [シリーズ災害と社会 第1巻]』の第7章第1節～第3節の内容について輪読します (E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1)。 - ミニレポートテーマ：住宅の耐震化 担当者が作成したミニレポートをもとに、文章表現に関する評価を行い、またレポート内容に関する質疑及び補足、意見交換等を行なう (E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1)。 - 共同研究テーマ：研究計画書の作成 (1) 各グループで設定したリサーチエスチョンと仮説を検証するには、どのような資料や統計データが必要となるか、そうした資料とデータをどう集めるか、集めた資料やデータをどのように検証に利用 (分析) するか、役割分担やスケジュールをどうするか等を検討し、研究計画書に整理します (K1、K2、L1)。 - 自らの関心のある研究テーマをリサーチエスチョンで示すとともに仮説を設定し、仮説の検証方法について計画書集約することができる。 - 実務経験を踏まえて説明します。 ② 予習 (180分) 『災害社会学入門 [シリーズ災害と社会 第1巻]』の第7章第1節～第3節を読んでおく※1 - ミニ・レポートのテーマについて自分なりに調べておく※2 - 自らのグループのリサーチエスチョンと仮説の検証に必要な資料やデータの種類、検証方法、自分が担当する役割、スケジュールについて予め考えておく。 ※1 担当者を指定し、上記文献のレジюмеを作成してもらう。 ※2 担当者を指定し、テーマについてレポートを作成してもらう。 ③ 復習 (60分) - 輪読した文献について、レジюмеをもとに再読しておく。
12	① 授業テーマと概要 - 文献講読テーマ：熊本地震 (1) 震災時の医療・福祉・教育の問題 『熊本地震 連鎖の衝撃』医療・福祉・教育編について輪読します (E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1)。 - ミニレポートテーマ：木造密集地域 担当者が作成したミニレポートをもとに、文章表現に関する評価を行い、またレポー

	ト内容に関する質疑及び補足、意見交換等を行います（E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1）。 ・共同研究テーマ：研究計画書の作成（2） - 各グループで作成した研究計画書を発表し、全体で討議します（K1、K2、L1）。 ・自らの関心のある研究テーマをリサーチクエストションで示すとともに仮説を設定し、仮説の検証方法について計画書集約することができる。 ・実務経験を踏まえて説明します。 ② 予習（180分） ・『熊本地震 連鎖の衝撃』医療・福祉・教育編を読んでおく※1 ・ミニ・レポートのテーマについて自分なりに調べておく※2 ・自らのグループの研究計画書を完成させる。 ※1 担当者を指定し、上記文献のレジメを作成してもらう。 ※2 担当者を指定し、テーマについてレポートを作成してもらう。 ③ 復習（60分） ・輪読した文献について、レジメをもとに再読しておく。
13	① 授業テーマと概要 ・文献講読テーマ：熊本地震（2）震災時の避難 『熊本地震 連鎖の衝撃』避難編について輪読します（E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1）。 ・ミニレポートテーマ：自主防災組織 - 担当者が作成したミニレポートをもとに、文章表現に関する評価を行い、またレポート内容に関する質疑及び補足、意見交換等を行います（E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1）。 ・共同研究テーマ：研究計画書の作成（3） - 各グループで作成した研究計画書を発表し、全体で討議します（K1、K2、L1）。 ・自らの関心のある研究テーマをリサーチクエストションで示すとともに仮説を設定し、仮説の検証方法について計画書集約することができる。 ・実務経験を踏まえて説明します。 ② 予習（180分） ・『熊本地震 連鎖の衝撃』避難編を読んでおく※1 ・ミニ・レポートのテーマについて自分なりに調べておく※2 ・自らのグループの研究計画書を完成させる。 ※1 担当者を指定し、上記文献のレジメを作成してもらう。 ※2 担当者を指定し、テーマについてレポートを作成してもらう。 ③ 復習（60分） ・輪読した文献について、レジメをもとに再読しておく。
14	① 授業テーマと概要 ・文献講読テーマ：熊本地震（3）震災時のライフライン 『熊本地震 連鎖の衝撃』ライフライン編について輪読します（E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1）。 ・ミニレポートテーマ：ハザードマップ - 担当者が作成したミニレポートをもとに、文章表現に関する評価を行い、またレポート内容に関する質疑及び補足、意見交換等を行います（E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1）。 ・共同研究テーマ：文献調査（1） - 各グループで設定したリサーチクエストションと仮説を検証する上でどのような先行研究や公的刊行物、統計データが必要かを検討し、文献リストを作成する（K1、K2、L1）。 ・自らの関心のある研究テーマをリサーチクエストションで示すとともに仮説を設定し、仮説の検証方法について計画書集約することができる。 ・実務経験を踏まえて説明します。 ② 予習（180分） ・『熊本地震 連鎖の衝撃』ライフライン編を読んでおく※1 ・ミニ・レポートのテーマについて自分なりに調べておく※2 ・自らのグループのリサーチクエストションと仮説の検証に関連しそうな文献を予め調べておく。 ※1 担当者を指定し、上記文献のレジメを作成してもらう。 ※2 担当者を指定し、テーマについてレポートを作成してもらう。 ③ 復習（60分） ・輪読した文献について、レジメをもとに再読しておく。
15	① 授業テーマと概要 ・文献講読テーマ：熊本地震（4）震災時の行政 『熊本地震 連鎖の衝撃』行政編について輪読します（E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1）。 ・ミニレポートテーマ：防災訓練 - 担当者が作成したミニレポートをもとに、文章表現に関する評価を行い、またレポート内容に関する質疑及び補足、意見交換等を行います（E1、H2、F1、I1、I3、K1、K2、L1）。

	・共同研究テーマ：文献調査（２） 各グループで作成している文献リストをもとに、どのような文献をもとに共同研究を進めるのかを報告し、全体で討議する（K1、K2、L1）。 ・自らの関心のある研究テーマをリサーチエスチョンで示すとともに仮説を設定し、仮説の検証方法について計画書として説明することができる。 ・実務経験を踏まえて説明します。 ② 予習（180分） ・『熊本地震 連鎖の衝撃』行政編を読んでおく※1 ・ミニ・レポートのテーマについて自分なりに調べておく※2 ・自らのグループのリサーチエスチョンと仮説の検証に関連しそうな文献のリストを完成させる。 ※1 担当者を指定し、上記文献のレジュメを作成してもらう。 ※2 担当者を指定し、テーマについてレポートを作成してもらう。 ③ 復習（60分） ・輪読した文献について、レジュメをもとに再読しておく。
関連科目	「自主創造の基礎（RMGST1218）」・「アカデミック・スキルズ（RMGT1219）」・「基礎ゼミ（RMGT2601S）」・「ゼミナールⅡ～Ⅴ（RMGT4602S・RMGT4603S・RMGT4604S・RMGT4605S）」
教科書	■研究の方法論に関する教材 ・伊藤修一郎、2011年『政策リサーチ入門—仮説検証による問題解決の技法』東京大学出版会。 ・荻谷剛彦、2002年『知的複眼思考法 誰でも持っている創造力のスイッチ』講談社。 ■災害対策に関する教材 ・秋吉 貴雄、2017年『入門 公共政策学 社会問題を解決する「新しい知」』中央公論社。 ・浦野 正樹・吉井 博明・大矢根 淳・田中 淳編、2007年『災害社会学入門 [シリーズ災害と社会 第1巻]』弘文堂。 ・大石久和、2012年『国土と日本人 災害大国の生き方』中央公論社。 ・熊本日日新聞社編集局、2016年『熊本地震 連鎖の衝撃』熊本日日新聞社。 ・永松伸吾、2008年『減災政策論入門 [シリーズ災害と社会 第4巻]』弘文堂。
参考書・参考URL	参考資料や参考書は適宜授業で提示する。
連絡先・オフィスアワー	■連絡先 開講時に告知します。 ■オフィスアワー 木曜4限。それ以外の時間については、メール等で事前にアポイントメントをとることにより研究室またはZoom等で対応します。
研究比率	■危機管理領域との対応 災害マネジメント70%：パブリックセキュリティ10%：グローバルセキュリティ10%：情報セキュリティ10% ■危機管理学と法学とのバランス 危機管理学70%：法学30%

